

208 地球映像資料館（その2）：100年前と大きく変わった日本（2023年11月2日）

前回、オー＝ド＝セーヌ県立アルベール・カーン美術館が所蔵する映像と写真のアーカイブである[地球映像資料館](#)の中から、1926年（大正15年/昭和元年）から1927年（昭和2年）にかけて撮影され、今も大きく姿を変えていない[日本の文化遺産](#)をご紹介します。今回は、この100年で大きく姿を変えた東京を見ていきます。

最初は、各地を結ぶ東京の鉄道の玄関口である東京駅です。駅舎は、当時最も権威のあった建築家の辰野金吾（1854-1919）が設計し、1914（大正3）年に開業しました。1926年に撮影された東京駅（写真右上）と現在の東京駅（写真右下）を比べると、背景に立つビルは異なるものの、堂々たる駅舎は同じ姿に見えます。



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine  
Tôkyô, Japon, La gare centrale, quartier de Marunouchi, A55228XS

駅舎は、災禍に見舞われた歴史があります。第二次世界大戦末期の1945年5月の爆撃により、大きな被害を受けました。戦後、修復されたものの、破壊された三階部分やドームは復元されず、当初の姿から少し変わってしまいました。しかし、創建当時の姿を取り戻すために大規模な改修工事が行われ、2012（平成24）年に復元された駅舎が開業しました。現在の東京駅は、開業当初の建物が保存されている部分と復元された部分、さらに新たに建設された部分が見事に合体しています。



建物は100年前の姿に復元されましたが、周りの環境は異なります。当時は、駅前に人力車の乗り場がありました（写真右）。現在の東京駅は、新幹線、在来線、地下鉄が走り、広くて複雑に入り組んだ構造です。駅の構内や駅から直結したビルには、数多くの商業施設が入っており、巨大なターミナル駅になっています。



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine  
Tôkyô, Japon, La gare centrale, quartier de Marunouchi, A55229XS

## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

東京駅は、東京都千代田区の有名な丸の内にあります。丸の内には、高層オフィスビルが立ち並びます（写真右上）。丸の内には、1890年頃からオフィス街の建設が進められました。ロンドンの金融街シティにあるロンバード・ストリートモデルにしたことから、「一丁倫敦」（小ロンドン）と呼ばれました。100年前のオフィス街は現在とは様子が異なりますが、レンガやコンクリートで作られた素敵な建物で、日本が西洋化しながら発展していった様子が伺えます（写真右下）。



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine  
Tôkyô, Japon, Une rue de Marunouchi (quartier des affaires surnommé «Le Petit Londres»). A55224XS

東京駅が鉄道の起点であるなら、道の起点は日本橋です。日本橋の近くに道路元標があり、道の距離を測るときは日本橋が起点になります。フランスでは、道路元標はパリのノートルダム大聖堂の近くにありますが、[現在の日本橋](#)の上には高速道路が走っていますが、100年前の写真（写真右）では道路が橋の上を通っておらず、美しい橋の姿を見ることができます。現在、2040年度の完成を目指して、高速道路の地下化に向けた大規模な工事が進められています。工事が完成すれば、100年前の人が見た日本橋に近い姿を見られることでしょう。



© Musée départemental Albert-Kahn, Département des Hauts-de-Seine  
Tôkyô, Japon, Canal et pont Nihonbashi. A55697XS

この100年の間に、東京駅を行き交う人々、駅周辺の丸の内オフィス街や日本橋界隈の様子は、大きく変わりました。しかし、東京駅や日本橋は、今も昔も変わらず人々の往来を見守っています。